高等学校における教科指導の充実

外国語科（英語）

４技能の統合を目指した
コミュニケーション活動の在り方

栃木県総合教育センター
平成21年３月

ま　え　が　き

総合教育センターでは、平成17年度より、「高等学校における教科指導の充実に関する調査研究」に取り組んでいます。この調査研究の目的は、基礎・基本の確実な定着を図るための授業改善を目指して、教科指導の在り方について研究し、その成果を普及することにより、生徒の学力の向上に資することにあります。

教育課程実施状況調査や学力に関する国際的な調査では、日本の児童生徒の学力の状況や学習に対する意識などが明らかにされ、文部科学省等からも学力向上のための様々な対策が打ち出されたり提言がなされたりしています。

平成19年12月に公表された、2006年のOECD生徒の学習到達度調査（PISA）では、科学的リテラシーをはじめ、数学的リテラシー、読解力のそれぞれについて問題点が指摘されています。

また、平成20年12月には、国際数学・理科教育動向調査の2007年調査（TIMSS2007）の結果が公表されました。この調査では、学力低下に歯止めがかかったという分析がある一方で、パターン化された指導の弊害とも見られる結果も一部に見られ、思考力の育成に課題があることも指摘されています。

小学校と中学校の新学習指導要領が平成20年３月に公示されたのに続き、21年３月には、高等学校の新学習指導要領が公示される予定です。高等学校においては、数学と理科が24年度から、国語、地理歴史、公民、外国語が25年度から学年進行で実施されます。小・中学校、高等学校とも、今回の改訂の主な改善事項として、「言語活動の充実」、「理数教育の充実」が示されました。これらは、先に挙げた各種調査で、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題、知識・技能を活用する問題に課題が見られたことなどに対する改善策でもあります。

本調査研究においては、今年度、国語科、公民科、数学科、理科、外国語科（英語）の各教科で、各種調査の結果から指摘されている課題と教育界の動向を踏まえ、その解決を図るための授業改善について取り組みました。研究の成果をまとめた本冊子を有効に御活用いただければ幸いです。

最後に、調査研究を進めるにあたり、御協力いただきました研究協力委員の方々に深く感謝申し上げます。

平成21年３月

栃木県総合教育センター所長

鈴　木　健　一

目　　　　　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

英語に関するアンケート調査結果から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

事例１　単語の定着を図るためのスキット作り・・・・・・・・・・・・・・ 4

事例２　英語でセリフを考えてみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

事例３　ロールプレイをしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

事例４　Story Boardを利用してビデオを作ろう ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

事例５－１　先生方にインタビューをしよう－その１－・・・・・・・・・・・・・ 17

事例５－２　先生方にインタビューをしよう－その２－・・・・・・・・・・・・・ 22

事例６　コマーシャルをつくろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

事例７　英語で劇をしてみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

事例８　ムービーをつくろう ・・・・・・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

※本資料は、栃木県総合教育センターのホームページ「とちぎ学びの杜」内、「調査研究」と「教材研究のひろば」のコーナーにも掲載しています。

「とちぎ学びの杜」 http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/

４技能の統合を目指したコミュニケーション活動の在り方

はじめに

平成23年度より完全実施される小学校新学習指導要領では、「外国語活動」が導入され、第５学年と第６学年で週に１時間、年間35時間「外国語活動」を行うことになる。「聞くこと」「話すこと」を中心とした活動の中で、体験を通して自分の思いや意見を伝えようとする態度を養うことを目的としている。さらに、中学校新学習指導要領においては、「聞くこと」「話すこと」に重点を置きながら、「読むこと」「書くこと」も含めて英語を理解し、英語で表現できる基礎的な運用能力を養うため、言語活動を行うことになる。つまり、新学習指導要領では、小学校・中学校ともに、様々な表現活動を通してコミュニケーション能力を育むことに、より一層重点が置かれている。新学習指導要領における、小学校「外国語活動」、中学校「外国語」の目標は、それぞれ次の通りである。

＜小学校＞　外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。
＜中学校＞　外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

このような流れを考えると、中学校までに培われた「聞く、話す、読む、書く」の４技能を、高等学校においてさらに伸長させ、それらを「統合」した様々な表現活動によって、コミュニケーション能力を育成していくことがますます求められる。そこで、本調査研究では、コミュニケーション能力を育成するには、授業に様々な活動を取り入れることが効果的であると考え、実際に授業の中で実践できる４技能を関連付けたコミュニケーション活動の開発を研究のテーマとした。そして、「統合」を「効果的に結びついていること」と捉え、活動の内容によっては、ある技能に重点を置き、それ以外の技能は必要な時に活用するなどの工夫をした。

また、本研究では、コミュニケーション能力を、「発話の目的や意図をよく理解したり、適切に伝達できる能力」と捉え、授業中に行うコミュニケーション活動を、「相手に対する伝達を目的として学んだ英語を使用してみる学習活動」とした。

そこで、次の二種類の活動目的を設定し、それぞれについて指導事例を作成した。

①授業で取り上げた学習事項の応用活動として行う活動で、授業で学習した事項をコミュニケーションの場面で生徒に使わせることにより、その言語機能を確認させることを目的とするとともに、学習事項の一層の定着を目指す（事例１、２、３、６）

②特定の学習事項との関連を意識せず、生徒がもっている知識のすべてを使用してコミュニケーションを図ることを目的とする（事例４、５、７、８）

なお、指導計画の立案上留意したことは、学校生活や日常生活などを想定した場面の中で、言語の具体的な使用場面を設定することと、４技能を活用した活動を促し、生徒一人一人に自己表現させることを重視した取組を行うことである。本事例集は、生徒に成功体験をさせながら英語運用能力とコミュニケーション能力を育成する学習活動について、指導の工夫に取り組んだ事例集である。

＜研究協力委員＞

栃木県立宇都宮南高等学校　教諭　渡辺聡代
栃木県立今市工業高等学校　教諭　福田恵太郎
栃木県立黒羽高等学校　教諭　小谷由紀

＜研究委員＞

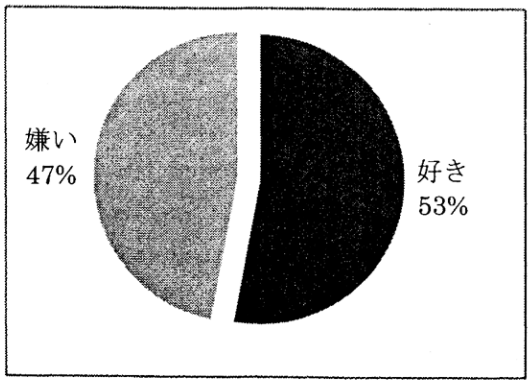
栃木県総合教育センター研修部　指導主事　大岡寿子

英語に関するアンケート調査結果から

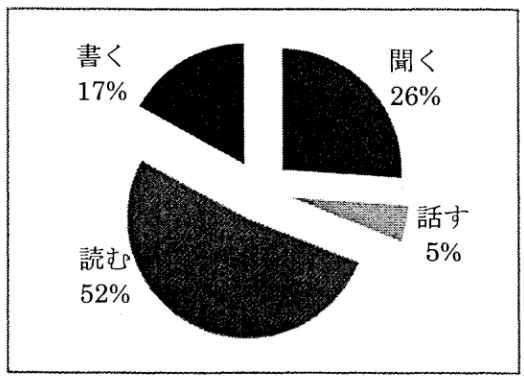
まず最初に、生徒の英語への関心・意欲や、実態を知るために、研究協力委員が勤務する３校で、約500人の生徒を対象に、同じ調査項目で意識調査を行った。

（1）アンケート結果の分析

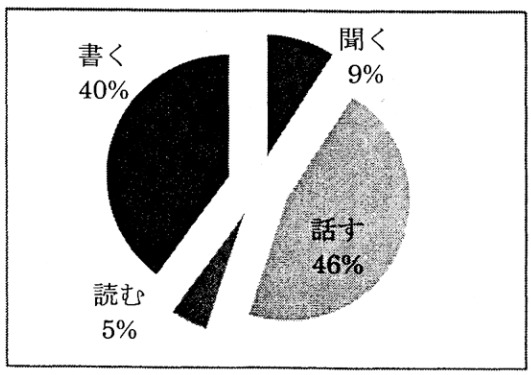
1　あなたは英語が好きですか。



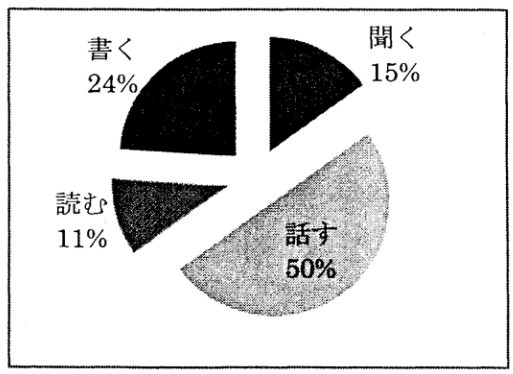
2　「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で得意なことは何ですか。



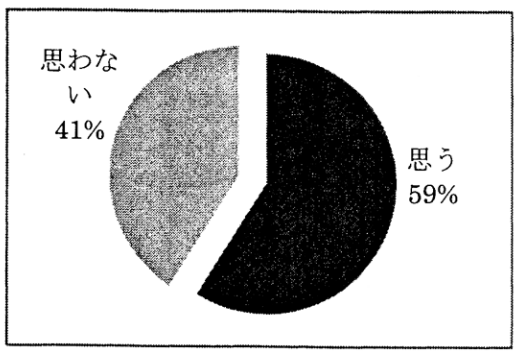
3　「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で苦手なことは何ですか。



4　「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で力をつけたいことは何ですか。



5　英語は必要だと思いますか。



6　英語でどのようなことができるようになりたいですか。（多かった回答を抜粋）

- 外国の人と話がしたい。交流したい。
- 映画のように、英語のセリフを言ってみたい。
- 英語の歌を歌いたい。
- 洋画、洋楽を理解したい。
- 洋書や英語の新聞を読んでみたい。インターネットの英語のサイトを理解したい。
- 海外旅行に行って、その国の人と英語で話したい。
- 困っている外国の人を助けてあげたい。
- 英語を活かせる仕事に就きたい。

＜アンケートの結果の考察＞

① 得意と感じることでは「読む」ことが一番多い。日常の指導で、音読や日本語訳などの本文の読解を中心とした「読む」活動が多いためと考えられる。

② 得意なことで最も少ない項目は「話す」ことである。また、苦手なことで最も多いのも「話す」ことであった。これは、日常の指導で「話す」活動を取り入れる機会が少ないため、話すことへの抵抗感が大きいためではないかと考えられる。

③ 「力をつけたいこと」では、「話す」ことが半数を占めた。苦手と感じているが、英語を話せるようになりたいと思っている生徒が多いことが分かる。

④ 英語でできるようになりたいことでは、「外国の人と話がしたい」が最も多く、この回答でも「話したい」という生徒の希望が表れた。

これらの結果は、ある特定の学校だけではなく、調査対象とした３校に共通したものであった。アンケートからは、多くの生徒が「英語を話したい」という思いをもっていることが分かる。

（2）アンケートの結果を踏まえて

コミュニケーション能力を伸長させるには、学んだ表現を用いて、伝達を目的として英語を話したり、それを聞いたりさせることが不可欠である。しかし、アンケートで明らかになったように、多くの生徒が英語を話せるようになりたいという希望をもっているものの、「話す」ことに対しては苦手意識を感じている。そこで、特に、「情報などの伝達を目的とした英語を発話する活動」を授業に効果的に取り入れる方法について考えた。あくまでも英語の指導であることを鑑み、ただ「話す」だけではなく、生徒が「英語を話す必要性を感じ、意味のある内容を伝えるために話す」活動を行うことを重視した実践研究を行うこととした。

事例１

単語の定着を図るためのスキット作り

１　活動の設定理由

英語の基礎・基本である単語力が不足しているために、英語を話したり読んだり書いたりすることに対して自信をもてず、そのために英語嫌いになってしまう生徒がいる。そこで、授業中に学んだ単語や表現を用いて作成した簡単なスキットを使用し、コミュニケーション活動を通して単語の定着を図りたい。

２　指導目標

短い会話を通して、教科書の新出単語などを使用できるようにする。

３　授業での位置付け

授業の最後の１０分～１５分で、まとめの活動として行う。１時間の授業のまとめとして行っても、レッスンやパートのまとめとして行ってもよい。

４　指導手順

①生徒をペアにする。
②ワークシートを配布し、自分の答えを書かせる。
③なるべくワークシートを見ないで、お互いの顔を見て会話ができるように、読む練習をさせる。
④ペアでスキットの練習をし、相手が言った単語や文章を聞き取り、ワークシートに書かせる。
⑤さらに二～三人を相手に、同じようにスキットの練習をさせる。
⑥スキットで用いた新出単語などを、ワークシートに練習させ、書けるようにさせる。

５　指導上の留意点

①新出単語など生徒に覚えさせたい単語は、スキットの練習をしている間に自然に何度も発話したり聞いたりできるように、スキットを工夫する。
②ワークシートに、そのスキットの中で定着させたい単語を練習する欄を作っておき、最後にキーワードとして確認し、まとめとして書く練習をさせる。
③質問者は、相手の答えに対して、意見や感想などの「プラス　１　sentence」を、短くてもいいので言うように指導する。
④聞き取れなかったときに聞き返す表現や、相づちをうつなどの表現を前もって練習し、必要に応じて使うように指導する。

６　教材例

開隆堂　*English Now English Course I*　Lesson 5　"Something New in Japan" (p35)
Lesson 9　"Garbage, Garbage, Everywhere!" (p71)

７　資料

資料①　ワークシート例　Ⅰ
資料②　ワークシート例　Ⅱ
資料③　生徒が作成したワークシートの例

＜資料①　ワークシート例　Ｉ＞

Lesson 5　　Something New in Japan

Class　　No　　Name

＊ Let's practice!

A : Our school has lots of school events.　What school event do you like?

B : (　　).

A : Why?

B : Because (　　).

A :　プラス　1　sentence

For example …
ceremony
school trip
school festival
field day

＊ Ask your friends and fill in the blanks.

name	favorite event	reason

＊ Write KEY WORDS 5 times.

参考

このスキットの中で扱った新出単語

event, lots of, ceremony, festival, field

＜資料②　ワークシート例　Ⅱ＞

Lesson 9　　Garbage, Garbage, Everywhere!

Class　　No　　Name

＊ Let's practice!

A : Do you know 3R?

B : Yes, of course.　(R　　)(R　　)(R　　).

A : That's right! We produce a lot of waste and it is increasing year by year.
　What can you do to solve this problem?

B : I (　　)

A :　プラス　1 sentence

For example … have my own eco-bag / have my own eco-bottle / don't use *waribashi* buy recycled goods / separate garbage

＊Ask your friends and fill in the blanks.

name	Can he/she answer 3R?	To solve the problem, he /she ～
	R R R	
	R R R	
	R R R	

↑

相手が答えた単語を書こう！

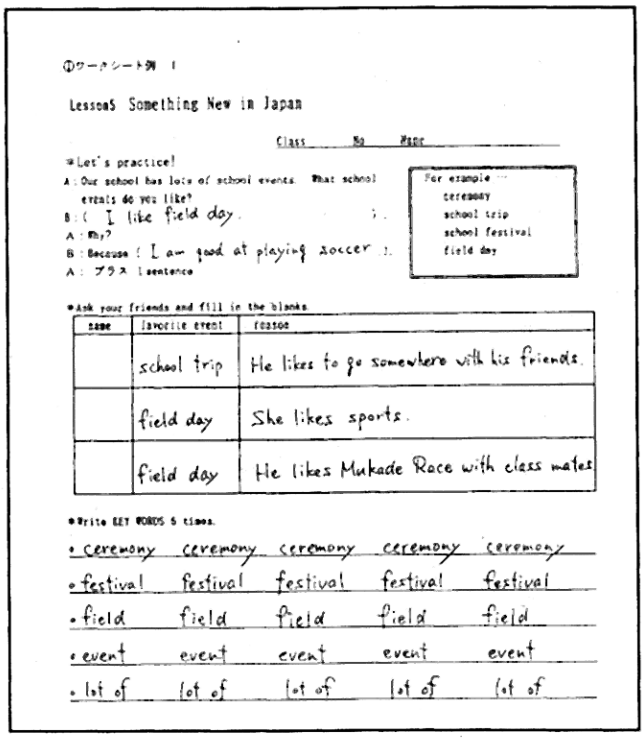
＊Write KEY WORDS 5 times.

参考

このスキットの中で扱った新出単語

produce, reduce, reuse, recycle, increase, solve, waste

＜資料③　生徒が作成したワークシートの例＞



①ワークシート例　1

Lesson5 Something New in Japan

Class　No　Name

＊Let's practice!

A : Our school has lots of school events. What school events do you like?

B : (I like field day.).

A : Why?

B : Because (I am good at playing soccer).

A : プラス 1 sentence

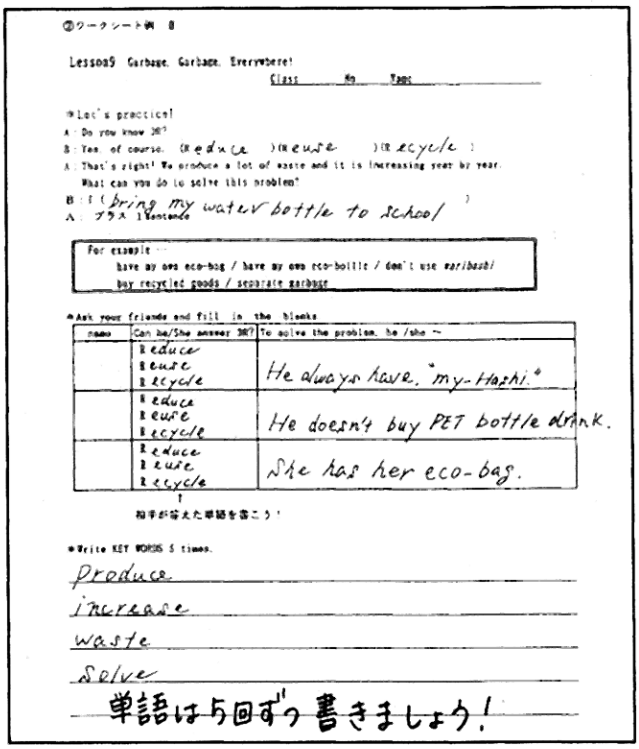
For example ···
ceremony
school trip
school festival
field day

＊Ask your friends and fill in the blanks.

name	favorite event	reason
	school trip	He likes to go somewhere with his friends.
	field day	She likes sports.
	field day	He likes Mukade Race with class mates.

＊Write KEY WORDS 5 times.

- ceremony　ceremony　ceremony　ceremony　ceremony
- festival　festival　festival　festival　festival
- field　field　field　field　field
- event　event　event　event　event
- lot of　lot of　lot of　lot of　lot of



②ワークシート例　8

Lesson5 Garbage, Garbage, Everywhere!

Class　No　Name

＊Let's practice!

A : Do you know 3R?

B : Yes, of course. (Reduce) (Reuse) (Recycle).

A : That's right! We produce a lot of waste and it is increasing year by year. What can you do to solve this problem?

B : I (bring my water bottle to school).

A : プラス 1 sentence

For example ···
have my own eco-bag / have my own eco-bottle / don't use waribashi / buy recycled goods / separate garbage

＊Ask your friends and fill in the blanks.

name	Can he/She answer 3R?	To solve the problem, he/she ~
	Reduce Reuse Recycle	He always have "my-Hashi."
	Reduce Reuse Recycle	He doesn't buy PET bottle drink.
	Reduce Reuse Recycle	She has her eco-bag.

相手が答えた単語を書こう！

＊Write KEY WORDS 5 times.

Produce
Increase
Waste
Solve

単語は5回ずつ書きましょう！

8　考察

英単語を定着させるためにスキットを利用し、活動に「書く→読む→話す→聞く→書く」という流れを取り入れた。この活動を続けることで、生徒に見られた主な変化は次の三点である。

①最初は、生徒の中に自分の考えを英語にすることへの苦手意識があり、例示されている答えだけを使用したスキットしか作れず、自分の意見を述べるというよりは、示された例の中から選んだものを使用するというだけだった。しかし、活動を繰り返すことで、簡単な単語ではあるが英語で自分の考えを伝えられるようになったり、「プラス１sentence」 のバリエーションが徐々に増えてきたりした。

②最初はお互いに相手のワークシートを写してしまう場面も見られたが、相手が理解しやすいように、ジェスチャーを使ったり、ワークシートではなく相手の顔を見て話したりするように指導を続けることで、「分かりやすい伝え方」を意識するようになった。そのため、相手の話す内容を少しずつ聞き取ることができるようになってきた。

③聞き取れなかった時の表現や相づちをうつ表現を活用し、実際に会話として成り立つように、生徒一人一人が考えて発話するようになった。

内容を意識して発話することで、自然に英単語の言語機能を認識し、生徒の中で以前よりも英単語の定着が図られている。その結果、テストでの正答率が上昇したり、新出単語を用いて英作文をする活動に意欲的に取り組む姿勢が見られたりしている。設定された場面の中ではあるが、「生徒が自分の思いや考えを相手に伝えようとし、それを聞き取り、感想や意見を述べる」というコミュニケーション活動を英語で行うことは、生徒が感じる英語への抵抗感を減少させ、学習意欲の向上へとつなげる効果的な手段である。

9　応用例

スキットの内容は、教科書の内容ばかりではなく、生徒が興味関心をもっているものにしたり、学校行事や季節の行事にしたり、様々なバリエーションが考えられる。また、単語だけでなく、重要表現などの定着を目指すスキットもある。

事例２

英語でセリフを考えてみよう

１　活動の設定理由

生徒にとって漫画は身近なものである。そこで、教科書の内容を８コマの漫画で表し、吹き出しに入る登場人物のセリフを英語で推測し、漫画を完成させる活動を行うことにした。活動を通して、教科書の内容理解を深めさせたい。

２　指導目標

英語で漫画を完成させることで、教科書の内容を適切な英語でリプロダクションできるようにする。

３　授業での位置付け

探偵の物語を扱う単元のまとめの活動として、教科書の内容を定着させるために実施する。

４　指導手順

①本文の内容を再確認し、活動の内容を説明する。
②三～四人のグループを作る。
③吹き出しの中に、登場人物のセリフを考えて入れさせる。
④自分たちが考えたセリフを練習し、発表させる。

５　指導上の留意点

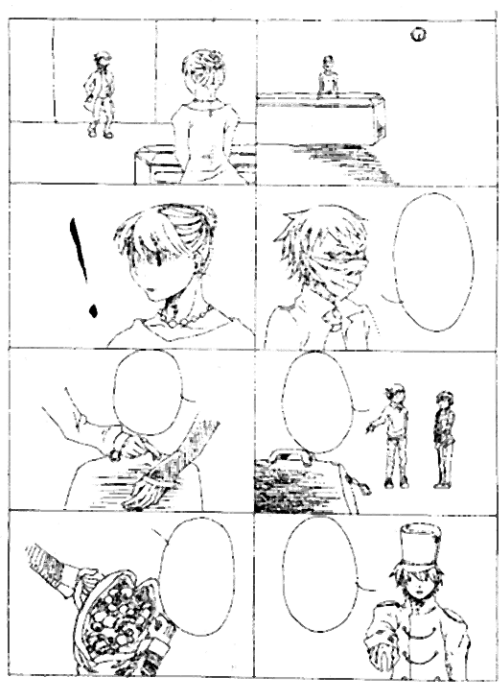
①ワークシートは事前に配布し、生徒に考えさせておく。
②発表の際は、ただ原稿を読むのではなく、分かりやすく発表するように、事前にグループで練習させる。声の大きさや、間の取り方、リズム、イントネーションなどに注意させる。発表の方法は各グループごとに工夫させる。

６　教材例

数研出版　*Big Dipper English Course I*
Lesson 7 "The Case of the Wrong Bag" Part 1
（p 78）

７　資料

資料①　使用したワークシート（右図）
資料②　生徒が作成したワークシート



資料②　生徒が作成したワークシート　1

生徒が作成したワークシート　2

8　考察

この活動では、次の四つの技能が、順に必要となる。

①「読む」（物語を読んで、情報や考えを正確に把握し、概要を捉える。）

②「書く」（自分が得た情報を、セリフ形式を用いて英語で分かりやすく表現する。）

③「話す」（作成した漫画の内容を、聞き手が理解しやすいように、英語の音声的な特徴に留意して発表する。）

④「聞く」（クラスメイトの英語での発表を正確に聞き取り、様々な表現方法を理解する。）

生徒は、特に「書く」段階と「話す」段階で難しさを感じていたが、意見を出し合い、協力し合って、課題を解決していた。また、資料②の「生徒が作成したワークシート２」のように独自のセリフを追加したり、一コマずつ劇仕立てで発表したりと、活動を通して様々な工夫も見られた。このような自主的な取組は、生徒の学習活動への意欲の表れであり、生徒が英語の有用性や必要性を認識できているということである。教科書の内容を理解して終わりではなく、効果的なコミュニケーション活動を通して、理解したことを表現することで、自発的な「学び」が成立する。

9　応用例

紙芝居や事例４で扱うストーリーボードなどにまとめることも可能である。

事例３

ロールプレイをしよう

１　活動の設定理由

ＯＣの教科書に載っている会話練習の活動は、与えられた文の空所に言葉を入れる形で展開することが多い。このような活動では、空所に言葉を入れることに集中してしまい、自分が伝えたい内容を一つの文として意識して発話できないことがある。そこで、自分の考えを英語で発話する機会を増やすために、ロールプレイを行う。設定された場面の中ではあるが、演ずる役になりきり、情報を相手に伝えるために、できるだけたくさんの英語を発話させたい。また、それまでに教科書で扱った表現を積極的に使うことも意識させたい。

２　指導目標

①実際の場面で英語が使えるようになるために、ロールプレイを通して、自分が伝えたい情報を英語で伝えることができるようにする。

②相手の話を聞いて理解するとともに、状況に応じて適切に英語で応答できるようにする。

３　授業での位置付け

教科書で会話表現を学んだ後、復習・定着のためのコミュニケーション活動として、一つの単元ごとに実施する。主にペアワークで行う。

４　指導手順

①教科書で学んだ会話表現を使用させる場面を設定し、相手に伝える内容が日本語で書かれているカードを二種類用意する。インフォメーションギャップのあるカードにする。

②生徒をペアにし、ＡとＢのどちらの役になるかを決めさせ、その役のカードを配布する。

③約一分間、黙ってカードを読み、自分が伝えなければならないことを確認させる。

④約二分間、カードの内容が盛り込まれるようにペアで会話練習をさせる。

⑤会話の内容を思い出し、ワークシートに再現させる。

⑥いくつかのペアに発表させる。

⑦ワークシートを回収し、改善点を書き込んでフィードバックする。

５　指導上の留意点

①カードを日本語と英語の両方で作ると、そのカードに書かれている英語を使って文を作ろうとしてしまうので、日本語だけで作る。そうすることで活動の難易度は上がるが、生徒がより自分の言葉で意味内容を伝えようとするようになる。

②フィードバックの際に文法事項について訂正すべきことがあっても、強く指摘すると、その後間違いを恐れて発話しなくなってしまう恐れがあるので、伝えたいことを伝えようとすることが大切であることを強調する。

③内容を書いてから話すのではなく、まず「話す」活動をすることで、会話であることを意識させ、相手の言ったことに対して自然な受け答えができるようにさせる。さらに、まとめとして発話したことを「書く」活動をさせ、振り返りができるようにする。

６　教材例

啓林館　*Sailing Oral Communication I*　　各レッスンにある1st Trialの問題２

7　資料

資料①　実際に使用したインフォメーションギャップのあるカード
資料②　生徒が作成したワークシート

＜資料①　実際に使用したインフォメーションギャップのあるカード＞

例①

Sailing Oral Communication I（啓林館）　Lesson 1 What Day Is Convenient for You?

A:あなたはこれから友達を誘って買い物に行く約束をしようとしています。平日は火曜日以外は部活動があり、また土曜日には大会があります。何曜日の何時に、どこで待ち合わせをするか、友達と話し合って決めてください。

B:あなたは友達と買い物に行きたいと思っていますが、火曜日・木曜日の放課後と土曜日は英会話同好会の活動があるので行けません。何曜日の何時に、どこで待ち合わせをするか、友達と話し合って決めてください。

例②

Sailing Oral Communication I（啓林館）　Lesson 3 Could I Have a Extra Blanket?

A:あなたはこれからアメリカに入国します。アメリカに観光目的で２週間滞在する予定です。パスポートを必ず携帯し、入国審査を受けてください。

B:あなたは入国審査官です。これから入国する人にパスポートを見せてもらい、その人の名前・入国目的・滞在期間を確認したら、パスポートを本人に返すことになっています。

例③

Sailing Oral Communication I（啓林館）　Lesson 4 Who's Calling, Please?

A:あなたはRico先生に、明日の授業は認欠でいないことを電話で伝えたいと思い、これから電話をかけます。Rico先生が不在の場合は、後でメールで連絡するので、メールを見てほしい旨を伝えます。

B:あなたはRico先生の友達です。先生がちょっと出かけている間、留守番をするよう頼まれています。電話がかかってきたときは、伝言を預かることになっています。

＜資料②　生徒が作成したワークシート＞

例①を使用したもの

Role Play

［友達と電話での会話］

A: あなたはこれから友達を誘ってインターパークに買い物に行く約束をしようとしています。平日は火曜日以外は部活があり、また土曜日には大会があります。何曜日の何時に、どこで待ち合わせをするか、友達と話し合って決めなさい。

B: あなたは友達と買い物に行きたいと思っていますが、火木の放課後と土曜日は英会話同好会の活動があるので行けません。何曜日の何時に、どこで待ち合わせをするか、友達と話し合って決めなさい。

Let's Talk!

A	[Would you like to go] ~~How about going~~ ~~shopping~~ to interpark [with me] this Tuesday?
B	Oh.. I'm sorry…. I have English club [on] that day. [English club meeting]
A	I see. When are you [going to be] free?
B	I'll [be] free on Sunday. ←（「火曜・木曜・土曜 以外」と言えるともっと良かったね）
A	OK. How about Sunday?
B	OK. Where will we meet?
A	Let's meet in front of [the] a movie theater.
B	All right! I'm looking forward [to] that day.
A	Me too, good bye.
B	Good bye.

例③を使用したもの

Role Play

［友達と電話での会話］

A: あなたは Rico 先生に、明日の授業は欠席でいないことを電話で伝えたいと思い、これから電話をかけます。Rico 先生が不在の場合は、後でメールで連絡するので、メールを見てほしい旨を伝えます。

B: あなたは Rico 先生の友達で、ちょっと出かけている間、留守番をするよう頼まれています。電話がかかってきたときは、伝言を預かることになっています。

Let's Talk!

A	Hi. I'm　　. Can I speak [to] Rico?
B	Sorry, Rico [is] ~~goes~~ out now. {Shall / Can} I take a message?
A	Yes, please.
~~B~~	~~Have a message.~~
A	[Please tell him] ~~Because~~ I will email ~~it~~ [him] later, [so check] ~~please watch~~ it.
B	Ok.
A	Thank you very much.
B	You're (well come) ← welcome（1語）
A	See you.
B	See you. → 電話なので Bye! にする

8　考察

この活動では、伝えたい情報を分かりやすく的確に表現するためにはどうすべきかを、常に生徒に考えさせた。特に生徒に意識付けしたことは、①これだけは伝えたいということを必ず一つ決める、②内容を整理して順序よく伝える、③難しい単語を使いすぎない、の三点である。生徒は、最初、二分間会話が続かず、黙ってしまったり日本語を使ってしまったりしていた。しかし、徐々に会話の時間が長くなり、相手の発言に対する返答も状況に適した内容になっていった。

また、ワークシートに再現する活動を行うことで、自分が発話した英語の適切さ・正確さを確認できるだけでなく、生徒に「ここでこう表現すればよかった」という気付きが見られた。ただ役になりきって会話をするだけではなく、「書く」ことによる自己評価をさせることで、生徒の活動への動機付けが図られた。

自分が伝えたい情報を伝えるために最も必要とされるスキルは、「話す」ことである。生徒が興味をもつ身近な場面を設定し、発話の必要性を感じさせることで、自発的に取り組む姿勢が見られ、意味のあるやりとりができた。そして、「話す」活動の後に「書く」活動を取り入れることで、この二つのスキルが効果的に結びつく活動となった。

9　応用例

インフォメーションギャップがあれば、どのような教材でもできる活動である。レッスンのまとめとしても、学校行事などと関連させても実施できる。

事例４

Story Boardを利用してビデオを作ろう

１　活動の設定理由

自分の学校について紹介したり、学校生活について説明したりすることは、授業でよく行われる活動の一つである。教科書に載っているコミュニケーション活動は、ペアワークでの穴埋め形式の会話、ペアでのインタビュー活動とその発表というものであった。学校は生徒にとって最も日常的な生活場面であるので、教科書に載っている活動だけでなく、さらに発展させて、自分たちの学校、特に部活動について紹介するビデオを制作することにした。紹介ビデオを完成させることで、自信をもたせ、達成感を感じさせたい。撮影は、ストーリーボードを利用することにし、前もって場面を設定し、英語の説明文を考えることで、情報を正確に伝達する方法を考えさせたい。

２　指導目標

①部活動の内容を紹介するビデオを作成することで、活動内容を英語で順序立てて説明できるようにする。

②他の部活動の紹介ビデオを視聴し、その内容を英語で理解できるようにする。

３　授業での位置付け

学校生活を扱った単元のまとめの活動として、実際に自分たちの部活動を紹介する。

４　指導手順

①部活動ごとに、活動内容などを六つのシーンで紹介するストーリーボードを作成させる。映像があるので、英語は短く分かりやすい表現を使い、部活動の内容を簡潔に説明するように指導する。

②できあがったストーリーボードの英語をチェックし、まずは正確に読めるようになるまで練習させる。

③読めるようになったら、自分たちの伝えたい内容がきちんと他の生徒たちにも伝わるようにするには、スピードや目線など、どのような点に注意して英語を発話すればよいかを考えさせ、さらに練習させる。

④部活動ごとに一コマずつ撮影する。

⑤完成したものをクラスで視聴する。どの部活動が分かりやすく紹介できていたか、それはなぜかを話し合い、まとめのワークシートに書かせる。

５　指導上の留意点

①難しく考えさせない。また、英語の間違いはあまり恐れず、「分かりやすく伝える」ということを意識させる。

②適切な声量で、はっきり話すように指導する。

③撮影して終わりにせず、振り返りをする。どのように紹介したら分かりやすいかということを、教師が教えるのではなく、自分たちで作ったビデオを視聴し振り返ることによって気付かせ、自己評価させる。

６　教材例

三省堂　*SELECT Oral Communication I*　Lesson 4 "Our School"

７　資料

資料①　Story Board 用紙

資料②　実際に作成した Story Board の例

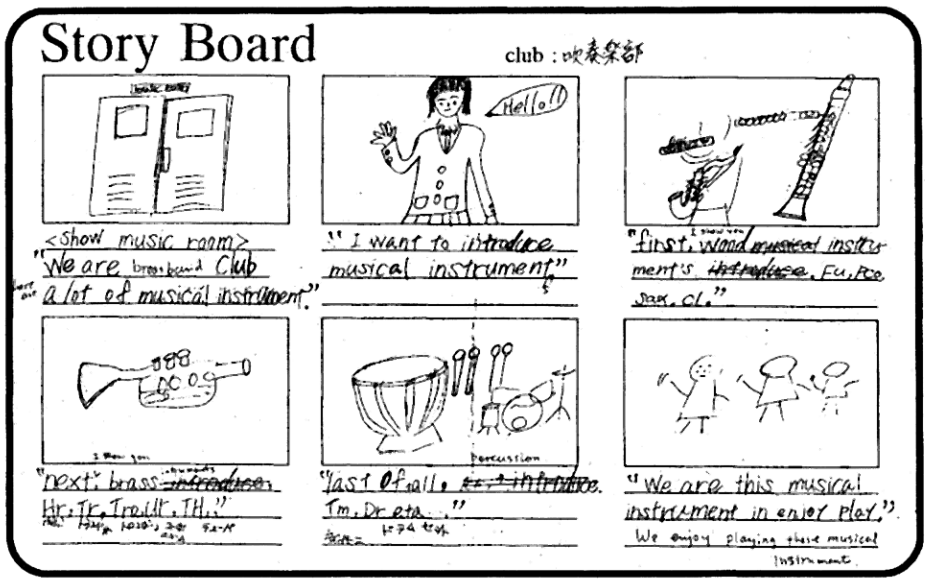
資料③　生徒による活動の感想

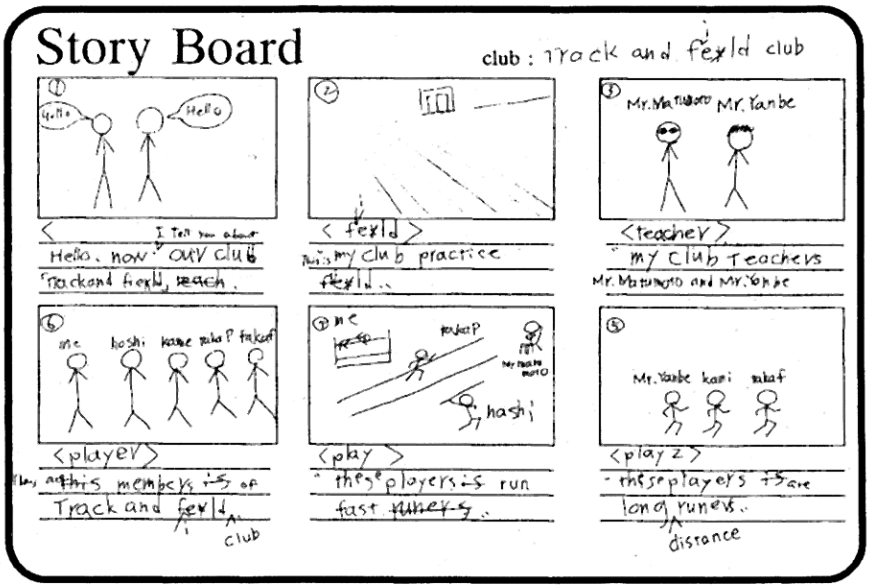
＜資料①　Story　Board　用紙＞

Story Board

club:

＜資料②　実際に作成した Story Board の例＞





＜資料③　生徒による活動の感想＞

- 皆と英語で話すということがなかったから新鮮な感じでおもしろかった。
- 英語で部活動紹介するのが難しかった。うれしはずかし半分楽しかった半分。
- 何度か失敗もしたけど、みんなで協力して楽しくやることができました。
- 最初は、嫌だなあと思ったけど、とったビデオをみせてもらいとてもよくできたと思います。
- 思っていたよりも、おもしろいものができて大満足です。

8　考察

授業を担当しているクラスに全ての部活動の部員がいるわけではないため、授業を担当するクラスを超えた活動になった。同じ学年を担当している英語科の教員の協力もあり、全ての部活動の紹介ビデオを制作することができた。六コマの撮影で、一つの部活動の撮影は20分程度で終了した。

ストーリーボードを利用する主な利点としては、次の二点が挙げられる。

①六つの場面を設定することで、生徒は伝えたい情報を整理して英語で正確に表現することができる。

②一コマずつ区切って撮影することで、生徒はすべてのセリフを一度に覚える必要がなくなる。それが、自然な英語の発話につながる。

これらの利点を活かし、「意味のある内容を適切に伝える」ことを体験させることは、生徒の学習意欲と英語運用能力の向上につながる有効な活動である。

振り返りとして、完成したビデオを視聴し、相互評価を行った。生徒は活動を通して試行錯誤を繰り返した結果、英語での効果的な表現方法に対する興味関心が高まっており、活発な意見交換がなされた。

生徒が活動の意義を理解できなければ、活動意欲も学習意欲も高まらない。それぞれの生徒がもつ英語のスキルを最大限に活用し、それらを統合させて、「自分の部活動の魅力を伝える」というグループの共通の目標を達成することは、生徒のコミュニケーション能力を伸長させる契機になった。

今後の課題として、英語を話すことに対する苦手意識が強い生徒のために、自然に英語を発話できるような雰囲気作りが必要である。また、発話できる英文がより正確でより長くなるように指導を工夫していきたい。

9　応用例

クラス紹介、学校紹介、地域の紹介、修学旅行先の紹介などが考えられる。
ビデオレターとして制作し、学校関係者以外の人に見てもらう機会を作る。

事例５－１

先生方にインタビューをしよう　－その１－

１　活動の設定理由

生徒は、日頃の日本語でのコミュニケーションは抵抗なく行っているが、「英語」でコミュニケーションを図ることに対しては苦手意識が強く、なかなか自分から積極的に英語を使おうとしない。そこで、普段から会話を交わしている教師に英語でインタビューをすることで、英語でコミュニケーションを図るという機会を設けた。ただし、決められた質問をするだけではなく、教師に関して自分たちが知りたい内容を英語で質問し、英語でやりとりをし、英語でまとめるという活動内容にした。最終的には、成果物として、インタビューの内容をもとに一冊のプロフィール帳を作成させる。

２　指導目標

①関心のあることについて英語で相手に質問したり、相手の質問に答えたりできるようにする。
②インタビューで得た情報を整理し、英語で的確に書き表すことができるようにする。

３　授業での位置付け

好きな番組、スターなどに関するレッスン、休日の過ごし方などを扱ったレッスンのまとめの活動として行う。

４　指導手順

①生徒を二～三人のグループにし、インタビューする教師を割り振る。自分たちがインタビューをする教師への質問を考え、質問シートを作成させる。（教師には、事前に質問を提示しておくようにする。）
②質問シートを見ないで言えるように、練習させる。
③実際に英語でインタビューさせる。質問の答えは必ず英語で書き留めておくように指導する。
④インタビューの内容を英語でレポート用紙にまとめさせ、清書させる。
⑤生徒たちがまとめたレポートを一冊のプロフィール帳にまとめさせる。
⑥最後に一覧表にした「List of Questions」を配布する。

５　指導上の留意点

①できるだけ生徒だけで質問を考えさせる。その際、簡単な質問ばかりにならないようにする。自分たちが聞いてみたいことや知りたいことを考えさせ、難しくてもそれを英語で尋ねるように指導する。
②教師への協力を事前に依頼しておく。
③レポートには、インタビューした際の教師の印象を必ず最後に記入させる。
④質問をするときは、教師が理解しやすいように、必ず相手の顔を見てはっきりと話すように指導する。

６　教材例

三省堂　*SELECT Oral Communication I*　Lesson 6 "TV Programs"

７　資料

資料①　List of Questions
資料②　インタビューシート
資料③　レポート用紙
資料④　まとめ用紙
資料⑤　実際に生徒がまとめたレポート
資料⑥　実施後の生徒の感想

＜資料① List of Questions (Examples) ＞

Japanese	English
誕生日はいつ？	When is your birthday?
血液型は何？	What is your blood type?
星座は何？	What is your sign of zodiac?
好きな異性のタイプは？	Who is your type?
好きな時代は？	Which period do you like best?
靴のサイズは？	What is your shoe size?
自分を動物に例えると何？	If you were an animal, which animal would you be?
苦手なものは？	What don't you like?
好きな色は？	What is your favorite color?
家族構成は？	How many people are there in your family?
好きなスポーツは？	What is your favorite sport?
好きな食べ物は？	What is your favorite food?
趣味は何？	What is your hobby?
休日の過ごし方は？	What do you ususaly do on weekends?
直したい癖は？	What is your bad habit that you want to break?
あこがれの偉人は？	Who is your favorite famous person?
住所は？	Where do you live?
年齢は？	How old are you?
飼っているペットは？	Do you have any pets? / What animal do you have?
好きなアーティスト（芸能人）は？	Who is your favorite artist?
行きつけの店は？	Which shop do you often go to?
年収は？	How much do you earn in a year?
好きな曲は？	What is your favorite song?
好きな映画は？	What is your favorite movie?
身長は？	How tall are you?
視力は？	Do you have good eyes? (Yes / No)
今はまっていることは？	What are you interested in most now?
好きな動物は？	What is your favorite animal?
好きな言葉は？	What is your favorite word?
好きなアニメは？	What is your favorite animation?
好きな飲み物は？	What is your favorite drinks?
チャームポイントは？	What is your charming point?
行ってみたい国は？	Which country do you want to go?
よく見るテレビ番組は？	What TV program do you often watch?
ストレス解消法は？	How do you reduce your stress?
子供の頃の夢は？	What was your dream when you were young?
学校の中で一番仲が良い先生は？	Who is the closest teacher for you at school?
大学でどんなクラブに入っていた？	Which club did you belong to at university?
もしも一つだけ願いが叶うとしたら何を願う？	If you could get your one wish, what would you hope?
学生の頃一日どのくらい勉強したか？	How long did you study in a day in your high

	school days?
死ぬまでにやってみたいことは？	What do you want to do before you die?
自分が校長になったらやりたいことは？	If you were a principal, what do you want to do?
総理大臣になったら何をしたいか？	If you are a prime minister, what do you want to do?
この学校の好きなところは？	What is your favorite point of this school?
どんな学生だったか？	How did you spend your school days?
自慢できることは？	What are you proud of yourself?
明日地球が滅びるとしたら何をしたい？	If the earth were to end tomorrow, what would you want to do?
青春とは何か？	What is "youth" foy you?
宝くじが当たったらどうするか？	If you win a prize in the lottery, what will you do?
今一番行きたいところは？	Where do you want to visit most now?
宝物は何？	What is your treasure?
感謝していることは？	What do you thank for?
最後に一言お願いします。	Will you give me any comment?

＜資料②　インタビューシート（尋ねたい質問をまとめておく）＞

Interview to the Teachers

Team　　:
Interviewee:
Date of the interview:
Questions:
　*
　*
　*
　*
Your comments: (What do you think of him/her?)

＜資料③　レポート用紙（質問が終わったら、英語でレポートを書く）＞

Report

Team:
Interviewee: Mr./Ms.
Article:

＜資料④　まとめ用紙　（先生の写真を添付、清書する）＞

< picture of
the teacher >

＜資料⑤　実際に生徒がまとめたレポート＞

Hiroshi Yashiro
（屋代　博）

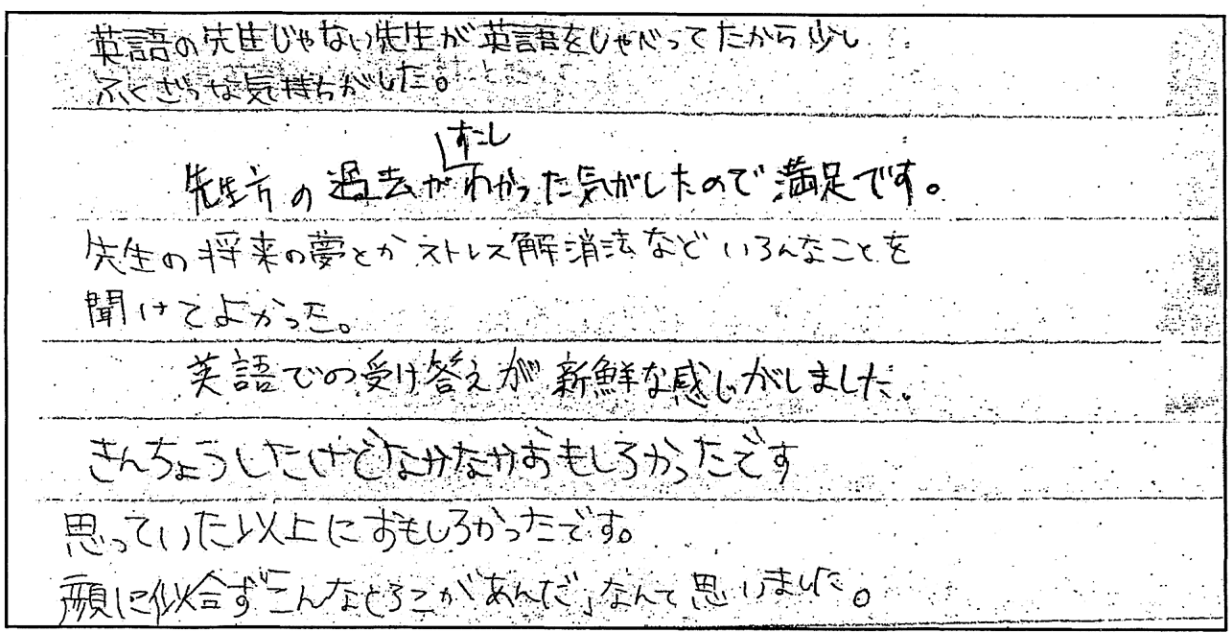
Hiroshi Yashiro (屋代 博 October 29,
blood type B)
He is Kurobane high school principal.
When he was young, his dream was to be
a baseball player. He longed to be a
baseball player.
He said "The students are always
cheerful. This is the good point of
Kurobane high school." He reduces his stress by gardenning
He answers last comment "It's difficult to answer this in English"

I felt nervous during the interview

Ishikawa Takeaki
（石川 武明）

His name is Takeaki Ishikawa.
His blood type is AB
He is bad at pretty women
To answer questions in English
is his complex.
He was a good student
when he was a child, his dream was to be a baseball
player
His smile is very cute ♥

＜資料⑥　実施後の生徒の感想＞


英語の先生じゃない先生が英語をしゃべってたから少し
ふしぎな気持ちがした。
先生方の過去がわかった気がしたので満足です。
先生の将来の夢とかストレス解消法などいろんなことを
聞けてよかった。
英語での受け答えが新鮮な感じがしました。
きんちょうしたけどなかなかおもしろかったです
思っていた以上におもしろかったです。
頑に似合ずこんなところがあんだ」なんて思いました。

8　考察

インタビューをする人が前もって準備しておいた質問をし、相手がそれに答えるだけでは、生徒のコミュニケーション能力の伸長を目指して授業中に実施する活動としては、十分であるとは言えない。より効果的な活動にするためには、インタビューをする側とされる側のインタラクションが不可欠であり、協働することが重要である。

本事例のような活動を実施する場合は、インタビューをされる教師に対して事前の協力を要請することが必要である。本事例では、普段英語に触れていない教師が大変協力的で、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうと努力してくれた。そして、その様子を見て刺激を受けた生徒も、意欲的に活動に取り組むという相乗効果が生まれた。英語を使って会話をするという活動であるため、最初は不安を感じて消極的であった生徒が、教師に励まされ、徐々に自発的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢が見られるようになった。自発性が生まれることで、教師の発話内容に関して即興で質問するなど、活動が活性化した。

インタビューに基づき、情報や考えを整理して発表する手段として、レポートを作成させた。分かりやすく伝えることを目的として、生徒が学んできた英語の表現を実際に活用して簡潔に書くことを指導した。最終的に、プロフィール帳として全教員へのインタビューを一冊にまとめたが、生徒にとっては、自分たちが取り組んだことが目に見える結果として表れ、達成感と満足感を味わったようだ。

活動を通して成功体験をさせることは、生徒が自主的に活動に取り組んだり、生徒の学習意欲を向上させたりするには非常に有効である。本事例のような活動は、言語の使用場面を設定して行う言語活動として効果的である。

9　応用例

成果物として、パソコンを用いてプロフィール帳を作成したり、模造紙に壁新聞としてまとめたりする。

事例５－２

先生方にインタビューをしよう　－その２－

１　活動の設定理由

自分の英語にあまり自信がないため、英語で話しかけたり意見を求めたりすることに苦手意識をもっている生徒が多い。そこで、英語科以外の教師に、英語でインタビューをする機会を設定した。ただし、ただインタビューをするだけではなく、一つずつミッションをクリアするというゲーム的な要素を取り入れた。具体的には、キーワードを集めたり、英語での指示に従って場所を移動するなどして、生徒の活動意欲を高めるような工夫をした。最終的には、そこで得た情報をもとに英語で教師を紹介する文を作成させ、それを発表する力を付けさせたい。

２　指導目標

①英語でコミュニケーションを図るために、関心のある事柄について相手に英語で質問できるようにする。
②状況や場面に応じて、英語で適切に応答できるようにする。
③インタビューで得た情報を整理し、英語で的確に書き表すことができるようにする。

３　授業での位置付け

ライティングの授業で、身近な人々を紹介する文章を書くための題材集めをする活動として行う。または、オーラルコミュニケーションの道案内の表現を学んだ後の応用活動として行う。

４　指導手順

①生徒をいくつかのグループに分け、質問事項を考えさせノートに書かせる。
②そのノートを提出させ、添削後返却し、グループで質問文を練習させる。
③正確に話せるようになったグループから、順に、英語でどこに行けばよいかという指示を授業担当教師が出す。
④指示通りに行った場所に別の教師にいてもらい、生徒の質問に答えてもらう。また、その教師にも質問をしてもらい、きちんと答えられたら、キーワードを生徒に伝えてもらう。さらに、次にどこに行けばよいのかを英語で指示してもらう。これを何度か繰り返し、最後には教室に戻って来させる。
⑤教室に戻り、教師に教えてもらったキーワードを用いて一つの文章を完成させる。また、教師の答えや質問をまとめ、教師を紹介するイントロダクションカードを作成させる。
⑥作成した紹介文は、発表させたり、模造紙などに貼って教室に掲示したりして、他の生徒にも伝えさせる。

５　指導上の留意点

①英語科以外の教師に協力してもらうので、事前に質問事項や指示の内容を十分に確認する。複数のグループがあるので、なるべく重ならないように、教室を出る時間に差をつけるなどの工夫をする。
②教師からの質問文には、生徒に定着させたい重要表現などを盛りこみ、必ずディクテーションさせる。
③最後に教師を紹介するカードを書くので、その情報を集められるような質問をさせる。
④辞書を持参させ、活動中に意味が分からなかった単語はその場で調べさせ、必ずメモさせておく。
⑤キーワードは、生徒がそれらを使って英作文をするので、あまり難しいものにしない。

6　教材例

旺文社　*Planet Blue Writing Navigator*　Stage 2　Unit 3 "Writing about People"
開隆堂　*Oral Communication EXPRESSWAYS I*　Lesson11　"Directions"

7　資料

資料①　ワークシートⅠ　　資料②　ワークシートⅡ
資料③　生徒が作成した「Introduction Card」

＜資料①　ワークシートⅠ＞　（質問を書いたり、教師の答えやキーワード、言われた道順を書いたりするもの）

Stage 2　Unit 3　"Writing about People"
Class(　　)　No(　　)　Name(　　)

Mission 1　先生方に関する情報をたくさん集めよう。
Mission 2　先生方からキーワードを聞き出そう。
Mission 3　先生方の「Introduction Card」を作ろう。

教室を出て、指示通りに行くと、ある先生が君たちを待っています。誰が待っているかはお楽しみです。その先生の紹介文が書けるように、なるべくたくさんの質問をして情報を集めてきてください。最後にその先生から君たちへ質問があります。それに見事答えられるとキーワードを教えてくれます。先生に聞かれた質問とキーワードは必ずメモしてきてください。その先生が新たな指示を出してくれます。その指示に従って行くと、また誰かが待っていてくれます。同じようにして情報を集めてきてください。グループで協力して、上の三つのミッションをクリアしてください。

TASK 1　What do you ask the teachers ?　・何を質問するかを考え書いておこう！
・質問するときは、相手の顔を見る！

＊
＊
＊

＊If you can make questions, please come to me.　I will give you the directions.

〈先生の指示〉どうやって進んで行けばいいのかな？メモしておこう！

TASK 2　Who is waiting for you?

KEY WORD

His / Her answers

His/ Her questions

〈先生の指示〉どうやって次に進んで行けばいいのかな？メモしておこう！

―　以下省略　―

＜資料②　ワークシートⅡ＞（教室に戻った後、活動のまとめとして使用するもの）

Welcome back!　Can you collect three "KEY WORDS" ?　①＿＿＿＿＿＿

TASK５　Make 1 sentence using three KEY WORDS.　②＿＿＿＿＿＿

③＿＿＿＿＿＿

参考　　今回のキーワード　① can　② English　③ better

＊生徒の作文例　　Ms.○○ can speak English better than I.

TASK６ Which way do your group take? Draw a map!

教室を出て、どこを通って、また教室に戻ってきたのか簡単に書いてみよう！先生の指示通りに行けたかな？

TASK７ Make Introduction Card.

インタビューで集めた情報をもとにして、先生方の紹介文を書いてみましょう。
３人の先生方を紹介しても、１人の先生を選んで紹介してもかまいません。

Introduction Card　　Mr. / Ms. (　　)

＜資料③　生徒が作成した「Introduction Card」＞

Introduction Card　Mr. /(Ms.) (○○)

Ms. ○○ lives in Esoshima. She likes going shopping in Tobu Department store. She buys lots of "Hello Kitty" goods because it is her favorite anime character. Her treasures are "Hello Kitty" room shoes. The color is pink. It is her favorite color. She will buy a "Hello Kitty" ball-point pen this weekend. She is looking forward to buying the new ball-point pen.

保健室で養護教諭にインタビュー

職員室でインタビュー

8　考察

ライティングの指導は和文英訳に偏りがちで、コミュニケーション活動を取り入れる機会は少ない。本事例では、パラグラフライティングのための情報収集の手段として、英語科以外の教師に協力してもらい、インタビュー活動を実践した。教師が英語でコミュニケーションを図ろうと積極的だったため、生徒たちも刺激を受け、積極的に発話しようとする姿勢が見られた。自分が知りたい情報を得るために、英語で会話をすることは、生徒にとっては難易度の高い活動であった。しかし、「伝えたい」「理解したい」という二つの思いが、教師にも生徒にもあったため、活発なやりとりがなされ、有益なコミュニケーション活動となった。

本事例には様々な要素が盛りこまれているため、生徒に課されているが内容が多く、予定していたよりも時間がかかってしまった。しかし、生徒はミッションをクリアするという目標に向かって前向きに取り組み、自然に英語を話したり、聞いたり、書いたりしていた。また、最後の「書く」活動において、生徒が書いた紹介文は、普段の授業で書いたものよりも内容が濃く、分量も多かった。ただ決められた質問をしてインタビューをするという活動ではなく、ミッションをクリアしながら活動を進め、最終的に紹介文を書くという目的をもたせた活動だったためではないだろうか。

コミュニケーション活動は、生徒が喜ぶような楽しい活動をすればよいというものではない。設定された場面の中ではあるが、自分がそれまでに習得している英語を用いて、コミュニケーションを図ることの楽しさを体験させることが重要である。それが生徒の英語学習への動機付けとなるからである。楽しさとは、もちろん「分かる・できる」楽しさのことであり、それを感じさせることができる言語活動が、意味のある活動といえる。生徒に学習活動に対する意義を感じさせることは、コミュニケーション活動を成功させる一つの鍵であると再認識した。

9　応用例

授業の位置付けの応用例

・道案内などの表現を学ぶレッスンのまとめとして行う。

・クラス内で自己紹介や他者紹介などを行った後の仕上げの活動として行う。

作成した紹介文のまとめ方の応用例

・新聞にして、クラスに掲示する。

・まとめて本にする。

事例６

コマーシャルをつくろう

１　活動の設定理由

テレビコマーシャルや宣伝広告は、普段生徒がよく接する情報の一つである。商品の魅力や値段などを正確に伝え、「買いたい」と思ってもらうためには、どのように英語で表現すればよいかを考えさせたい。さらに、表現する側として、英語の表現とともに、絵やジェスチャーを補助として使い、どうすれば適切で効果的に情報を伝えられるかといった表現方法を工夫させるとともに、プレゼンテーション能力も育成したい。また、発表を聞くことで、コマーシャルを英語で理解する力を付けさせたい。

２　指導目標

①自分たちが売りたい品物の利点や長所を、英語で表現できるようにする。
②クラスメイトが発表する英語でのコマーシャルを聞いて、伝えたい情報内容を英語で理解できるようにする。

３　授業での位置付け

テレビコマーシャルや宣伝広告などで使われる表現や、通貨単位について学んだ後、まとめの活動として行う。準備に一時間、発表会に一時間を使う。

４　指導手順

①クラスを四～五人ずつのグループに分ける。
②各グループにワークシートと宣伝する物（歯磨き粉の空箱など）を配布する。
③グループ内で宣伝のポイントを話し合って、三つ決めさせる。
④宣伝のポイントをもとに、コマーシャルを英語で作らせる。より効果的な発表になるように、絵やポスターなども作成させる。
⑤コマーシャルということを意識し、どのようにプレゼンテーションをすればよいかを考えさせ、グループで発表の練習をさせる。
⑥発表会を行い、他のグループの発表を聞かせる。
⑦どのコマーシャルが一番よかったかを理由も含めて話し合う。それをもとに、コマーシャル大賞を決める。

５　指導上の留意点

①グループ内で、英語で説明する人、カードを持つ人、宣伝する物を持ってパフォーマンスをする人、などの役割分担を行うが、英語を話す係だけが英語を考えることのないように、全員で一つのコマーシャルを作り上げるという姿勢で取り組むように指示する。
②宣伝のポイントのほかに、買える場所や値段の情報などを盛り込ませる。

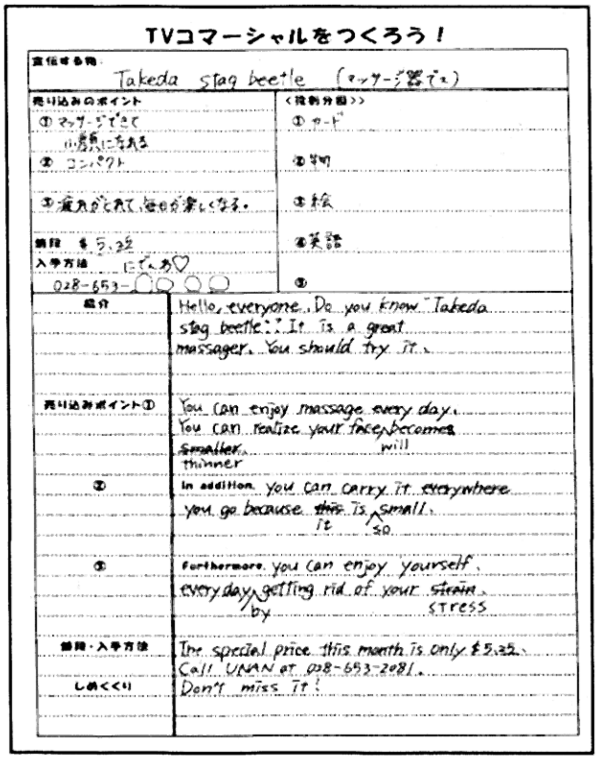
６　教材例

啓林館　*Sailing Oral Communication I*　　Lesson 6　Plus One Listening 6(p53)

７　資料

資料①　生徒が作成したワークシート例
資料②　ピクチャーカード例

<資料①　生徒が作成したワークシート例>



<資料②　ピクチャーカード例>

8　考察

本事例を通して、生徒に理解させたかったことは、次の二点である。

①伝える側が分かりやすく発表すると、聞く側も情報を正確に聞き取ることができる。

②内容を精選し、簡潔で明晰な文章を用いると、情報を分かりやすく伝達することができる。

品物がもつ魅力や利点を生徒が考えやすいように、コマーシャルをする商品は身近にあるものや生徒が興味関心をもっているものにした。生徒は、伝えたい内容があってもそれを英語で表現することができないことや、聞き手にアピールするために効果的なプレゼンテーションになるような発話ができないことを、もどかしく感じていた。生徒は、活動を進めながら、英語学習の必要性を実感し、日常の授業で学ぶ内容が実際の場面で有用であることを認識することができた。

本事例では、最終的には様々な場面で生徒らしい工夫が見られ、充実した発表会ができた。生徒が自分の英語のスキルアップが不可欠であると感じることは、英語学習意欲の向上へとつながる要因になる。活動後の感想では「もっと英語ができれば、言いたいことをきちんと言えると思った。」「普段の授業で、もっと英語を一生懸命に勉強しようと思った。」というような前向きな感想が多かった。上記の①、②の二点を体験を通して生徒に理解させることを目指した活動であったが、その過程において、４領域の力を高めることの重要性を生徒は強く感じていた。今後の課題として、考えを伝えるために表現能力を高めることと、発話する英語の量を増やすことに取り組みたい。

9　応用例

活動名「新聞の折り込み広告をつくろう」

「コマーシャル作り」の活動では、一つの商品を詳しく説明させた。これを応用した活動として、新聞の折り込み広告作りを行い、多くの品物の魅力や値段を一枚の紙で効果的に伝える方法を考えさせた。実際に広告の作成を始めると、多くの情報を盛りこみすぎてしまい、伝えたい情報を整理

し、簡潔に表現することの重要性を生徒は実感していた。どの作品が広告として分かりやすく魅力があるかを投票して決めるため、クラスで発表した後、教室内に掲示した。右の広告は、得票数　の最も多かったものである。

事例７

英語で劇をしてみよう

１　活動の設定理由

年度当初の「英語でできるようになりたいことは何ですか」というアンケートに、「字幕なしで外国の映画が分かるようになりたい」とか、「自分も英語のセリフを言ってみたい」と答える生徒が多くいた。しかし、実際の映画の中のセリフは、長かったり難しかったりして、「聞いている側に分かりやすく伝える」ということを目標にした活動には適さない。また、自分たちで劇を作ることは、生徒にとっては易しいことではない。そこで、教科書にある「Folk tales」のレッスンで、応用の活動として、誰もが知っている日本民話の「桃太郎」を英語で演じるという活動を、ライティングの指導の中で実践した。話の流れは十分に分かっているが、その内容を的確に伝えられるように、自分で英語のセリフを考えて、それを演じることによって、英語に対する自信をつけさせたい。

２　指導目標

①ストーリーを正確に伝えられるように、場面に適したセリフを英語で表現できるようにする。
②クラスメイトの英語劇の発表を通して、英語での様々な表現方法を理解できるようにする。

３　授業での位置付け

授業の中で、ストーリーを英語で書くという活動を事前に行い、その応用として、セリフ形式の英語で表現させる。準備が一時間、発表・まとめが一時間の、計二時間で実施する。

４　指導手順

①「PEACH BOY」を五つの場面に分け、クラスを五つのグループに分ける。
②自分たちが担当する場面のセリフを考え、スクリプトを完成させる。提出させて添削する。
③配役を決める。全員が劇に参加できるよう、一人一役とする。
④スクリプトを正確に読めるように練習させ、セリフを暗記させる。
⑤順番に発表させる。
⑥他のグループの発表に対して、相互評価をさせる。
⑦各グループのスクリプトを集めて、一冊の本にする。

５　指導上の留意点

①聞き手に分かりやすい英語で表現するように指導する。
②劇であることを意識させる。セリフを「言う」のではなく、登場人物として「話す」ように心がけさせる。抑揚、間、速さ、アイコンタクト、プロミネンスなどに注意させ、どうすれば正確に分かりやすく伝えられるかを考えさせる。
③発表をよく聞き、感じたことや良かった点などをメモさせておく。また、今後のために改善した方がよい点などもメモさせる。
④必要があれば絵や小道具などを用いるなど、効果的に発表するための工夫をさせる。

６　教材例

増進堂　*MAINSTREAM Writing Course*　Lesson 32 "Folk tales" Peach Boy (p114-115)

７　資料

資料①　セリフ作成スクリプト　　資料②　メッセージカード
資料③　生徒が作成したワークシート

＜資料①　セリフ作成スクリプト＞

Peach Boy

Characters &　Casts

Narrator (　　)		Dog (　　)	
Peach Boy (　　)		Monkey (　　)	
Grandfather (　　)		Pheasant (　　)	
Grandmother (　　)		Demon (　　)	

SCENE (　　)

(　　):

(　　):

(　　):

(　　):

(　　):

(　　):

参考

SCENE 1	導入の作成	桃太郎が生まれるまで
SCENE 2	場面の作成	桃太郎の成長、鬼の略奪行為
SCENE 3	展開の作成	鬼退治の決意と出発、犬・猿・きじとの出会い
SCENE 4	解決の作成	鬼退治に成功
SCENE 5	終末の作成	宝物をもって凱旋

＜資料②　メッセージカード＞

MESSAGE CARD

TO GROUP (　　)

FROM GROUP (　　)

＜資料③　生徒が作成したワークシート＞

・生徒が作成したスクリプト例

Peach Boy

Characters & Casts

Narrator (	)	Dog (	)
Peach Boy (	)	Monkey (	)
Grandfather (	)	Pheasant (	)
Grandmother (	)	Demon (	)

SCENE (1) 桃太郎が生まれるまで

(Narrator): Once upon a time, somewhere, there lived a grandfather and a grandmother. The grandfather went to to the mountain to gather firewood, and the grandmother went to the river to do the washing. Then, a huge peach rolled down the river.

(Grandmother) "Oh! What a huge peach!!"

(Narrator) She brought it back to her house, when the grandfather came back from the mountain, he was very surprised.

(Grandfather) "This peach looks very delicious. Shall we slice it and eat?"

(Grandmother) "Yes, let's!"

・生徒が作成したMessage Card例

MESSAGE CARD

TO GROUP (1)

- ナレータが上手だった。
- セリフを暗記していて、顔がこっちをみていた。
- 協力している感じがした。チームプレーって感じ。
- 声がもう少し大きいと、もっと聞こえてわかりやすいと思う。

FROM GROUP (4)

8　考察

本事例は、劇を演じるために英語を発話する力と、英語で演じられている劇の内容を理解する力の二つの能力を身に付けさせることを目標にしたものである。

文章を構成する単語一つ一つが表す意味に執着しすぎてしまい、文として伝える内容が意識できないために、英作文に苦手意識を感じる生徒がいる。このような状況を解決するには、使用する語句がもつ語法を十分に理解させることが有効な手段である。本事例においても、最初、生徒は日本語で話の流れを理解しているために、日本語でイメージしたセリフを一言一句違わないように英語で再現しようとしていた。そのため、作成したセリフが英語として意味をなさないという状況が見られた。そこで、直訳をするのではなく、一つの文として伝える内容を意識するように指導した。ま

た、グループワークを取り入れることによって、それぞれの生徒がもつ英語の様々な知識を活用し、聞き手にとって分かりやすい適切な英語の表現を用いたセリフを考えさせた。

自分たち自身が十分に発表の準備をしたため、英語での表現方法、適切な声量や話す速さなど、多様な視点で他の発表を聞いていた。その結果、生徒は様々な意見や感想をもち、最後の相互評価も熱心に行っていた。また、メッセージカードを英語で書いたり、英語と日本語の両方で書いたりしているグループもあった。生徒のモチベーションが高まることで、自発的な「学び」が見られた。

最終的に、随所に様々な工夫が見られる充実した発表会を行うことができた。活動に対する意識付けを図ることで、意欲的な取組が見られた。ライティングの授業では、和文英訳など与えられたものを書くことが多くなりがちであるが、これからもコミュニケーション活動を効果的に取り入れ、生徒の英語に対する学習意欲を高める工夫をしたい。

9　応用例

英語Ⅰや英語Ⅱで、レッスン終了時に、内容を劇にして、まとめや確認の活動としてもよい。また、教科書で扱う内容だけでなく、生徒オリジナルの劇を創作させるなどの応用例も考えられる。

事例８

ムービーをつくろう

１　活動の設定理由

最初に行ったアンケートの結果からも分かるように、洋画鑑賞は、生徒が興味をもっている活動の一つである。しかし、実際の映画を鑑賞しても、使われている表現が難しく、字幕を読むようになってしまい、なかなか英語の学習には結び付かない。そこで、生徒に、身近なものを題材にした簡単な英語ドラマを映画仕立てにして制作させ、鑑賞会を行うことにした。ストーリーの展開を楽しみながら、映画の中で使われている英語を聞き取り、内容を理解させたい。

２　指導目標

①ストーリーの展開に留意し、それぞれのシーンにふさわしいセリフを英語で正確に表現できるようにする。

②制作した映画を鑑賞し、内容を英語で理解できるようにする。

３　授業での位置付け

映画やテレビドラマについての内容を扱った単元の応用活動として行う。

４　指導手順

①クラスを五グループに分け、まずはそれぞれのグループでストーリーを考えさせる。その後、各グループが考えたストーリーを発表し､それらを織りまぜて一つのストーリーを完成させる。

②ストーリーを七つのシーンに分け、クラスも七グループに分ける。グループごとに、担当するシーンを決め、正確にストーリーを伝えられるような適切なセリフを考えさせ、ワークシートに書かせる。

③ALTにワークシートの英語をチェックしてもらった上で、シナリオを完成させる。

④役割分担を決め、全員でセリフを練習させる。

⑤撮影する。

⑥上映会をする。

⑦相互評価をさせる。

５　指導上の留意点

①英語の授業時間に行うだけではかなりの時間を費やすことになってしまうので、昼休みや放課後なども利用して撮影する。

②セリフやナレーションだけではストーリー展開が分かりにくいところは、日本語の解説を字幕で入れる。

③役を演じる人だけが英語を話すことがないように、グループごとに全員がセリフを言えるように練習させる。

④上映会の後、感想をできるだけ英語で発表し合う。

⑤制作した映画を、他のクラスでも上映し、ストーリーを理解できたかどうかを確かめるための活動を行う。

６　教材例

数研出版　*BIG DIPPER English Course I*　Lesson 5 Dreams Are for Everyone

７　資料

資料①　生徒が作成したワークシート例　　資料②　シナリオ例

＜資料①　生徒が作成したワークシート例＞

LET'S MAKE A MOVIE!

Class(　　) No.(　　)

Name(　　)

TITLE Treasures in Our School	Scene (4) 杉商前
Outline: Bグループが杉商の前に行く。鳥男が出て来て，ゴールに行け」という紙をくれたので，行くことにした。	

Role	Words
ナレーター	The 1st group went to ~~杉商~~ the SUGISHO store immediately.
鳥男	(鳴き声) Do you know ~~who are you?~~ who I am?
生徒	~~Are~~ you a Bird Man?
	Oh, aren't
鳥男	Yes! I have a present for you
生徒	(カンを開けて中の紙を広げる)
	Wow!
生徒	Let's go to the class!
全員	Yes. let's!

＜資料②　シナリオ例＞

Treasures in Our School ～僕たちの学校の宝物～

Scene ①　教室

それはある暑い夏の日だった。僕たちはあまりに暑いので、勉強を中断し、英語の質問をするふりをして涼もうと、職員室に行くことにした。

ナレーター	It was a hot summer day.
Aグループ1	Isn't it too hot?
Aグループ2	I wonder why we don't have an air conditioner here.
Aグループ3	I cannot study because of this heat!
Bグループ1	Well, let's go to the teachers' room.
Bグループ2	Yes, we can say that we have some questions for English study.
全員	Yes. Let's go!

Scene②　職員室

残念ながら、よしこ先生は職員室にはいなくて、僕たちは職員室に長居できそうになかった。しかし、帰りかけたその時、変なものがよしこ先生の机の上にのっていることに気づいた。そう、それはなんと、僕たちの学校に眠るという伝説の宝の地図だった。僕たちはこっそりそれを持って、廊下に出た。

ナレーター	Unfortunately, Yoshiko was not at the teachers' room.
Bグループ３	（机上の地図を指差して）Oh, look at that!
Aグループ１	What is it?
Aグループ２	It looks like a map.
Aグループ３	Let me look! （地図を広げる）
Bグループ１	Wow, this is a treasure map!
Bグループ２	I want to find out what the treasure is!
Bグループ３	・・・（地図を持ち、手招きをしてみんなに廊下に出るよう促す）
全員	（廊下に出る）

Scene③　元の教室

宝の地図には、行くべき場所が二つ示されていた。１つは杉商の前、もうひとつは中庭の楠の根元だった。そしてまた、不思議なことに、杉商には鳥男、楠には妖精のようなものが描かれていた。そこで僕たちは、二手に別れて、それらの場所へ行ってみることにした。

ナレーター	There are 2 points on the map.
	One is in front of the SUGISHO store with a Bird Man.
	Another is under the KUSUNOKI tree with fairies.
Aグループ１	OK. Let's make two groups and go to each point.
Aグループ２	We can go to the SUGISHO store.
Bグループ１	OK. We will go to KUSUNOKI.
Bグループ３	Let's see if we can find it.
Bグループ２	See you later!
Aグループ３	Good luck!

Scene④　杉商前

Aグループが杉商の前に行くと、鳥男が待っていて、２－４の教室に行けという紙をくれた。

ナレーター	The first group went to the SUGISHO store immediately.
鳥男	（鳴き声） Do you know who I am?
Aグループ１	Oh, aren't you a Bird Man?
鳥男	Yes, I have a present for you. （カンを渡す）
Aグループ２	（カンを開けて中の紙を取り出す）Wow!
Aグループ３	Let's go to the 2-4 class!
全員	Yes, let's! （鳥男も一緒に走り出す）

Scene⑤　楠

Bグループが中庭の楠のところに行くと、妖精が現れ、２－４の教室に行けという紙をくれた。

ナレーター	The second group went under the KUSUNOKI tree.
Bグループ１	Oh, who are you?
くすのき１	Hello, everyone. We are the KUSUNOKI tree brothers.
くすのき２	We have a message for you. （缶を渡す）
Bグループ２	（缶を開けて中の紙を取り出す）Look at this!

Bグループ３	Wow!　We must go!（走り出す）

Scene⑥　２－４教室（実は１－３）

僕たちは全員同時に２－４の教室に到着した。すると、そこの黒板に「窓の外を見ろ」と書いてあった。窓の外には何かが入っていると思われる缶がぶら下がっていた。一人がそれを取ろうと、窓から身を乗り出したところ誤って窓から落ちそうになってしまった。

全員	（黒板を見て窓へ走り寄る）
Aグループ２	（窓から落ちる）Help!
Aグループ１	Oh, my goodness.
Aグループ３	We will help you.　Don't worry.
全員	（AグループBを何とかして教室に引っ張り上げる）
Bグループ１	We did it!

Scene⑦　Happy end

やっとのことで助け上げた友達の手にあった缶を開けてみた。すると、中には紙切れが入っていた。（紙切れの映像=[宝物は君たち生徒]）僕たちの短い冒険はこれで終わり。そして、夏休みももうすぐ終わろうとしていた。でも、僕たちの中では、明らかに以前とは違う何かが芽生え始めていた・・・完

Aグループ２	Thank you very much.
Bグループ２	You're welcome.
Bグループ３	Let's open this.（カンを開ける）
Aグループ１	（紙を開く）
全員	Gosh!
ナレーター	Our short adventure came to end at this point.
	In addition, our summer holidays were almost over.
	However, we know something has changed inside of us.　(The end)

8　考察

映画を制作することは、簡単な活動ではない。敢えてそれに取り組んだ理由は、生徒に成功体験をさせることで、英語に対する興味関心を高め、意欲的に英語学習に取り組む姿勢を身に付けさせたいと考えたからである。

指導する際には、いくつかの段階を設定し、少しずつ課題をクリアするような工夫をした。ストーリーを考える段階では、豊かな発想力で様々なアイディアが出ていたが、実際に英語で表現する段階になると、それまでに思い描いてきたプロットを表現するだけの英語力が不足していることを生徒は痛感していた。しかし、グループで協議することで、同じ内容を表すにも様々な表現方法があり、今までに学習して得た知識を活用すればプロットを変える必要がないということに気づき、協力しながらスクリプトを完成させていった。和文英訳のような活動では、英語で「書く」ことに苦手意識がある生徒は、単語が一つ分からないだけで、途中で「書く」ことをやめてしまう場合もある。しかし、本事例のように「書く」活動が意義付けされ、それを生徒が十分に認識できれば、生徒の自発的な工夫が見られ、意欲的な取組がなされる。

映画を視聴後、生徒に感想を聞いたところ、次のようなものがあった。

・最初は無理かも知れないと思ったけど、やってみたら楽しかった。

・一人ではできなくても、グループで協力して、みんなの力を一つにすると、難しいことも英語で言えると思った。
・日本語で考えたストーリーを英語にするとき大変だった。こんな言い方授業で勉強したかも知れないと思っても思い出せなくて、悔しかった。
・英語でセリフを考えたとき、もっときちんと勉強しておけばよかったと思った。
・大変なこともあったけれども、また映画を作りたい。

生徒の感想からも、達成感や満足感を味わったり、日頃の学習の重要性を認識したりしたことが分かる。本事例を通して今後の英語学習への意欲が高まった生徒が多かった。本事例は、英語に興味をもたせるには非常に有意義な活動であったと言える。生徒が英語を学ぶ必要性を感じ、それが英語学習への動機付けとなり、生徒の英語運用能力の伸長につながるようなコミュニケーション活動を、今後も研究して実践したい。

9　応用例

連続ドラマ形式で、一話ごとにクラスを変えて、作成する。

おわりに

高等学校新学習指導要領について

平成21年３月に新学習指導要領が公示される予定である。平成20年12月に示された案の段階での目標、改正のポイント、科目構成は次の通りである。

（１）外国語の目標

> 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。

（２）今回の高等学校「外国語科」改正のポイント

○必履修科目：現行の選択必修から「コミュニケーション英語Ⅰ」の共通必履修に変更
○科目構成：科目構成を変更し、４技能の統合的かつ総合的な育成を図るコミュニケーション科目、論理的に表現する能力の向上を図る表現科目、会話する能力の向上を図る「英語会話」に再編
○主な改善事項
・指導する語数を充実。コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ及びⅢを履修する場合においては高等学校で1800語、中高で3000語を指導（現行では、英語Ⅰ、英語Ⅱ及びリーディングを履修した場合、高校で1300語、中高で2200語）
・生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする

（文部科学省　学習指導要領　高等学校「外国語科」改正のポイント より）

（３）具体的な科目構成

科　　目	標準単位	必履修科目
コミュニケーション英語基礎	2	
コミュニケーション英語Ⅰ	3	○　２単位まで減可
コミュニケーション英語Ⅱ	4	
コミュニケーション英語Ⅲ	4	
英語表現Ⅰ	2	
英語表現Ⅱ	4	
英語会話	2	

まとめ

平成20年１月の中央教育審議会答申では、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験と結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能になるよう、４技能を総合的に育成する指導を充実するよう改善を図る、という基本方針が打ち出された。そして、新学習指導要領でも同様の方針が示された。新学習指導要領の必履修科目である「コミュニケーション英語Ⅰ」においては、「聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりする言語活動を適切に取り入れながら、四つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導するものとする」と明記されている。

コミュニケーション能力を育成するために、どのような指導を行っていけばよいかということに関しては、これまでにも様々な議論がなされ、多くの実践事例等が発表されてきた。今回の研究では、学習指導要領改訂の流れを踏まえて、「４技能の統合的かつ総合的な育成を図るコミュニケーション」

ということに焦点をあてて、事例研究を行った。聞くこと、話すこと、読むこと、書くことを織り交ぜながら指導し、意味のあるコミュニケーション活動を効果的に指導に取り入れていくことを重要視したからである。

事例１～事例８までは、設定された場面の中で、授業で学んだ英語を使って自分の思いや情報を的確に伝え、それを正確に理解しようとする英語でのコミュニケーション活動である。様々な自己表現活動を通して、自分の意見や考えが相手に伝わったという達成感や、相手の伝えたいことが理解できたという満足感を生徒が感じることによって、コミュニケーションへの関心・意欲を高め、英語の学習の動因になることをねらいとしたものでる。このねらいの達成と生徒の４技能の伸長を、相互に関連付けた指導事例である。それぞれの事例では、グループワークやペアワークなどを用い、生徒が４技能を効果的に活用する場面が設定されるように、指導を工夫している。各学校の実情に合わせて、それぞれの活動を応用し、指導の中に取り入れていただきたい。

今後さらに「コミュニケーション」という言葉がクローズアップされてくると思われるが、言葉だけが一人歩きしないように、生徒に身に付けさせたい英語力とは何かを常に考え、魅力あるコミュニケーション活動を行っていくことが大切である。

高等学校における教科指導の充実
外　国　語　科（英語）
４技能の統合を目指したコミュニケーション活動の在り方

発　行　　平成21年3月
栃木県総合教育センター　研究調査部
〒320-0002　栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7204　　FAX 028-665-7303
URL http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/